

# 今、思うこと

前生徒会長  
中村 翔  
(百十五期)

三年生になり、学校生活も勉強の色が強くなり、久しぶりに落ちついた生活をしているように感じる。そして、改めて様々なことに気づかされる。そんな最近思うことを書いてみようと思う。

## 1. 安積は変わった

今年より男女共学となり、昨年本当に忙しく共学化に向け準備をしてきた僕にとって四月に新しい幕開けがあった喜びはひとしおだった。

自分が入ったのは「男子校」であった安積だった。そして今は「共学校」の安積で生活している。違和感が無いと言ったら嘘になるが、安積の高校生活の大部分は「変わるな」と思う反面、一部「やはり変わったか」と思う所がある。具体的にはどうなのかというのは、非常に表現しづらいが、言うなれば今までの安高独特の「熱さ」が無い。やはり何となく冷めている感じの一年生がいる。どうしてもお互いを意識してしまうのだろうか。「仕方がない」と納得するのは簡単だ。しかし、納得したら最後、安

積独特の「熱さ」はほとんど失われてしまい普通の共学校になってしまいかもしれない。僕としても、それだけは嫌なので、卒業するまで自分が先輩達から伝えられた「熱さ」を後輩に伝えていきたいと思う。何といても安積高校が好きで、安積高校で学べることに誇りを持っているから。

## 2. 高校生活

もう自分の高校生活はあと半年程になってしまった。本当に三年生になるまで早かった。そして三年生になってからはもつと早く一日一日が過ぎていくように思える。僕は高校生活の目標に「自分の好きなものをやれるだけやる」というのをかかげた。中学のころよりも世界が広がる高校でしかできないことや、自分がやってみたいことを今日まで追い求めやってきた。自分がやりたかった生徒会では二年目に生徒会長となり、共学化に伴う様々な改革に直接関わることができ、人間的に大きく成長できた。春の選抜高校野球選手権大会に「二十一世紀枠」で出場した野球部を応援するために甲子園球場に行った。あのアルプススタンドで応援できたことは一生の宝物だ。夢だった外国でのホームステイにも行った。好きな合唱も続けている。書き上げればきりが無いが、それもこれもこの安積高校にそのチャンスがいくつもあったからで

きたことだと僕は思う。学校は人を大きく成長させるチャンスをとくさん秘めた所だと思おう。それを一番満喫できるのが「高校生活」だと思う。「自分の人生で常に主役であるために様々な物にチャレンジする」ということを高校生活に学んだ。残りの高校生活、そして次の「大学生活」に活かしたいと思う。

## 3. 努力すること

最近、僕が所属する合唱部の定期演奏会があった。三年生・最後の定演である。開演までには様々な苦労や困難があった。それを乗り越えられたのは「努力」であったと僕は思う。それまで自分に甘かったということを思い知らされ、心も体も限界状態であった。そして定演が終わり帰るお客さんに「よかったよ」と言われたとき、初めて「努力すること」の価値が少しわかった気がした。

今、僕は自分の進路に向かって「努力」している。これは誰のためでもなく、自分のためであり自分が次のステップに上がるためである。苦しくて、逃げ出したくなった事は何度もあった。それでも僕は少しずつ前へ進んでいる。

「志あるところに道はある」という格言がある。僕はその道を安積で見つけた気がする。これからその道を意気揚々と歩いていきたい。

# 新しい安積

現生徒会長

田村和也

(百十六期)

私が入学した時、安積高校は「男子校」だった。まさに男だけの世界であった。しかし、今私がいるこの高校は、「男女共学校」である。ご存知の通り、「男子校安積高校」は、平成十二年度、男女共学化した。また、それに伴って服装も自由化され、新しい安高としてスタートした。

男女共学化。女子の後輩が入学してきたのである。二・三年生は明らかに意識の変化があったと思う。また、現役の安高生だけでは無く、OBの方々にも何か思う所があると思う。私は、安高が共学になったら伝統が崩れてしまうのではないかと、まるで「前の安高が無くなってしまう」というような言葉を聞いた。しかし、そんなことにはある訳がない。確かに、共学化になり、安高は変わった。しかし、安積高校や安高生の本質というものは、無くなってはいない。男女共学化による安積の新しいスタートは、全くゼロからのスタートでは無いのである。温故知新という言葉が有るが、まさにそのようなも

のである。今まで私達の先輩が積みあげていったものをもう一度見直し、温め、そして新しいことを知る。そして、その新しいことを、次の世代へと積み上げていく。伝統はこうして積み上げられていくものだと思う。だから私は、伝統というものが、保守的で古くさいなどと思わない。むしろ、新しいことを知る上ではとても大切なものであると思う。だから、この共学という機会に、伝統をほりおこすという作業を、是非やってみたいと思う。

次に、服装自由化。これは殆どゼロからのスタートである。制服を定めない。学びの場にふさわしい服装を自由決定するのである。今までの与えられてきた「制服」は無くなったのである。しかし、やはり二・三年生の中には、服装自由化自体が、押しつけられたものであると思っ

は思う。そのために、もっと考えるべきではないだろうか。生徒と教師がともに考え、そして解決していく。この問題には明確な答えが出ないかもしれない。しかし、答えを出そうとすることは大切である。もっと母校となる高校に関心を持って欲しい。これからのことなど、私には分からない。それは、私たちがどう考え、どう行動するかにかかっているからだ。私たちが「これから」を作るのである。

最後に、この原稿を書くにあたって、紫の旗ML、ヤフー掲示板等インターネット上でのOBの方の意見を拝見させて頂き、卒業後も精力的に活動なさっているOBの方は素晴らしいと思った。そんなOBの方々がいるのに、私たちが現役が頑張らなくてどうするんだという気持ちにさせられた。また、OBの方々だけではなく、地域の方々、そして先生方の協力があることも忘れてはならない。そんなまわりの方々のためにも、私達は前にすすまなければならぬ。共学化して終わり、服装を自由化して終わり、では無い。そこから前へ進むことが大切なのである。私たちが温かく見守っていて下さる方々のためにも、一生懸命安積のために力を尽くしたいと思います。

これからも宜しくお願いします。

# 21世紀安高への期待

伊藤 稜 威

(七十四期)

野球部甲子園初出場おめでとう

21世紀枠で幸運にめぐまれて選抜初出場の選手諸君、君たちは北信越の強豪金沢高校を相手によく健闘してくれました。不運なイレギュラーヒット、テキサスヒットにより4点をとられましたが、松山君の力投、本田和君と佐藤君で取った貴重な1点、渡辺君の好守備など貴君らの実力は甲子園でも通用することを実証してくれました。また同じ21世紀枠出場の宜野座高校のベスト4進出も心強く感じました。東北代表仙台育英高校は決勝戦で惜敗し紫紺の優勝旗はまた白河の関を越えることは出来ませんでしたでしたが良く頑張りました。

アルプス席をはみ出し内野席まで占めた6000人の大応援団は初戦、甲子園から750kmの遠距離のチームとしては史上異例とマスコミ各社は報じました。28000人の卒業生、33万郡山市民、210万福島県民の期待がこのような結果

になったと思われます。特に11年間努力した先輩野球部員、地元で長く待ち望んでいた関西桑野会員にとっては言葉に表されないほどの感激でありました。当日郡山からバスでお越しになられた83歳の竹花先生、海外からも応援にかけたOBなど多彩な顔ぶれでした。

これで安高はアズミ↓アサカ↓アンコウと全国的に有名になりました。われわれ関西桑野会員も胸を張って安積高校と云えるようになりました。(ただし3月25日のNHKサンデースポーツで有働由美子アナはアズミ高校は故郷に春を持って帰りましたと放送…プロアナとして不勉強)田中監督と41人の野球部員の皆さん、夏は今回の貴重な経験を活かし、一段とたくましくなって実力で甲子園の土を踏んで下さい。そして今度は勝利し校歌、凱歌を唄いましょう!関西桑野会員は期待しております。

新入生男女共学おめでとう

卒業生のみなさんは進学面で県下No.1になりました。進学のバロメーターである東北大学合格者数で2年連続福高を凌駕しました。戦後長

期間福高の厚い壁が立ちはだかかっていましたが、20世紀最後と21世紀最初にトップになり男子校最後の意地を見せてくれてありがとう。磐高、会高はここ数年4強といえなくなっています。

(安高…35人、福高…32人、福女…18人、磐高…14人、安女…11人、白高…7人、会高…5人)

在校生のみなさんは貴君らの学年の野球部の甲子園初出場おめでとう。みなさんの学年が高17年の歴史の1ページを大きく開いてくれました。そして甲子園での応援団の指揮、マナーともみごとでした。夏に向けて野球、ラグビー、サッカー、陸上、水泳その他のクラブの活躍を期待します。進学面でも県下No.1を継続することを期待しています。

新入生のみなさん男女共学おめでとう。特に137名の女子生徒のみなさん第1期生として、21世紀安高の新しい歴史と伝統を築いてください。(男子…66%、女子…34%)

学力面では男女切磋琢磨してより一層の飛躍を期待します。クラブ活動では混声合唱、テニスや卓球の混合ダブルスなど今までになかった活動が楽しみです。野球部が夏甲子園に出場し、

女子生徒の皆さんの華麗な応援を期待していません。

### 21世紀安高に期待します

安高は117年の歴史と伝統をもち、国の重要文化財の旧校舎、多数の偉人輩出、福島県屈指の進学校、ラグビー部の花園初出場、野球部の甲子園初出場など福島県下では文武両道において天下の名門校になりましたが、東北の他県にはもっと優れた高校があります。

文においては仙台二(43%)、山形東(39%)、仙台一(27%)、盛岡一(26%)……安積(11%)とは大きな開きがあります。…国立9大学(東・京・阪・北・東北・名・九・一橋・東工)合格率。今年度より男女共学となりましたので生徒の質が高まり、単純計算では3年後16.5%と推定されますが、まだ上記他県トップ校とは差があります。主な原因は戦後半世紀にわたる福島県教育行政の問題と思われませんが、教職員、生徒ともどもより一層の努力と工夫を希望致します。

武においては秋田(22回)、盛岡一(9回)、磐城(9回)、八戸(7回)……安積(1回)

とは大きな開きがあります。…春選抜、夏選手権甲子園出場回数合計。

過去の実績は取り戻すことはできません。21世紀こそは安積の世紀と思つて今回の経験をはずみに研究を積み重ねてください。他のクラブの活躍も期待しております。

文武両道においてモデルになるのは盛岡一高と思われまふ。盛岡一高の岩手県における存在感は安高の福島県における存在感より大きく、他校を圧倒しております。桑野会岩手支部などを通じて比較研究をされては如何でしょうか？岩手県は小生の第二の故郷ですが、福島県より人口が少なく、寒冷地で、一人当たり県民所得も劣っています。また東京からの距離においてもハンディキャップがあります。福島県の方が客観的には教育条件が良いはずでず。

安高が21世紀には福島県の名門から東北の名門さらに全国の名門へと脱皮ができるよう期待します。

(参考データ：中村忠一著全国国高格付け2000年版による)

	県人口(万人)	全国比率(%)	9大合格者数/人口100万人
山形県	125	1.0	164
岩手県	142	1.1	121
福島県	214	1.7	89
	市人口(万人)	卒業生数(人)	9大合格比率(合格者/卒業生)%
山形東	25.6	280	39
盛岡一	28.8	320	26
安積	33.2	400	11